

【研究支援センターまとめ】

2019 年度科研費挑戦的研究（開拓・萌芽）審査の手引

2018 年 12 月日本学術振興会

結論：研究計画調書（概要版）に全てを叩き込む！！

1. 挑戦的研究の審査

- ① 研究経費の平均充足率は「100%」予定！！（応募額が全額採択される予定！！）
- ② 審査は「挑戦性」を最重視
- ③ これまでの研究活動の内容等により応募者の研究遂行能力を評価
- ④ 研究実績の多寡のみで判断しない
- ⑤ 採択すべき課題が少なくても無理に採択しない
- ⑥ 審査は審査区分表の「中区分」ごとに、同一の審査委員が総合審査（書面・合議）により行う
- ⑦ 応募が多い場合は、「事前選考（プレスクリーニング）」を行い、件数を絞る
- ⑧ 事前選考：1 研究課題 3 名の委員が「研究計画調書（概要版）」により評価
- ⑨ 書面審査：事前選考で選定された全ての応募研究課題について、「研究計画調書」により評価
- ⑩ 合議審査：書面審査の結果をもとに、他の委員との討議を重ね、採択研究課題を選定

2. 評定基準〔評定要素〕

- ① 挑戦的研究としての妥当性：学術の体系を大きく変革させる研究課題か。「萌芽」は、着想背景が明確かつ研究構想は合理的か。
- ② 研究目的及び研究計画の妥当性：研究目的は明確で、研究計画は適切か。
- ③ 研究遂行能力の適切性：「萌芽」の場合、研究実績から見て、研究遂行能力を有しているか。

3. 事前選考

前述の「評定要素」により優先度の高い順に評点「4」から4段階評価を行う。

| 評点区分 | 評点分布 |
|-----------------|------|
| 4 | 10% |
| 3 | 10% |
| 2 | 10% |
| 1 | 70% |
| 利害関係があるので判定できない | — |

研究支援センターチェックポイント: 評点「2」以上でなければ、「不採択」可能性大!!

4. 書面審査

前述の「評定要素」により、「4段階評価」を行う。

| 評点区分 | 評定基準 | 評点分布 |
|------|-----------------|--------------|
| S | 最優先で採択すべき | 採択可能件数に応じて調整 |
| A | 積極的に採択すべき | |
| B | 採択してもよい | |
| C | S～Bに入らないもの | |
| — | 利害関係があるので判定できない | — |

研究支援センターチェックポイント: 評点「B」以上であれば、「採択」可能性大!!